令和６年度
丹波市　認知症地域支援推進員活動報告

１　認知症地域支援推進員について

３名（各圏域地域包括支援センター）　　２名（基幹型地域包括支援センター）

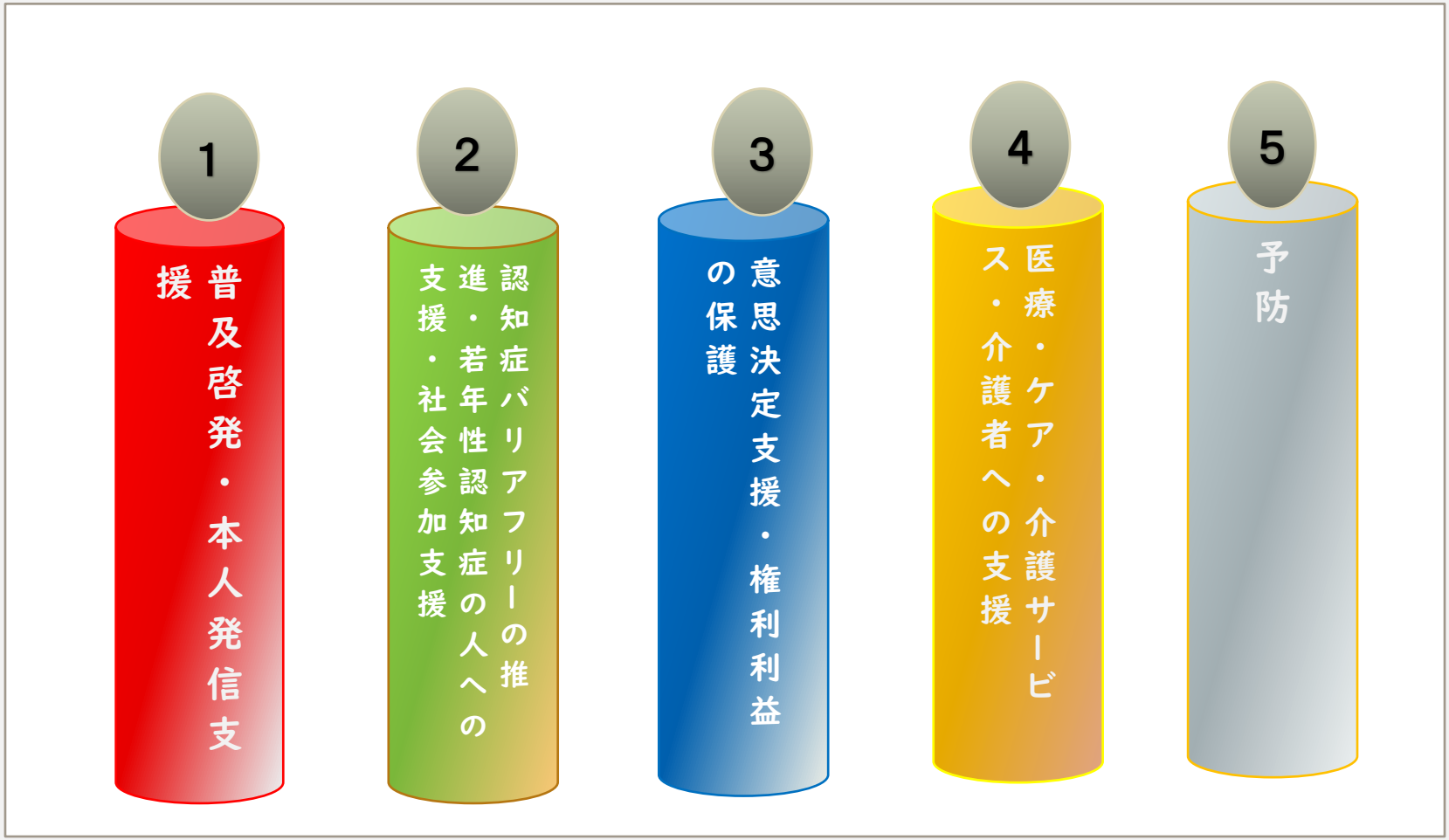
２　認知症地域支援推進員の役割

（１）普及啓発　・定期相談（認知症疾患医療センターとの連携）
（２）認知症介護者支援（認知症疾患医療センターとの連携）
（３）認知症初期集中支援事業の実施
（４）認知症カフェ開催（後方支援、交流会）
（５）認知症疾患医療センターと包括との連絡会
（６）認知症ガイドブックの更新・配布　（令和６年度のみ全戸配布）
（７）キャラバンメイト連絡会開催・企画・運営
（８）認知症サポーター養成講座の実施
（９）認知症の日・月間普及啓発活動
（10）認知症市民講演会

【報告者】西部地域包括支援センター：中村奈央美　　南部地域包括支援センター：山本悠子
東部地域包括支援センター：大久保真理　　介護保険課：荻野幸紀

丹波市　認知症施策全体図

丹波市の認知症施策の推進に向けた体系図
（丹波市第９期介護保険事業計画より）



標題
丹波市における地域共生社会・認知症バリアフリーに向けた取組

◇認知症市民講演会を開催

- 令和6年12月1日(日)に開催
- 市内外から257名が参加
- 講演

「認知症について」

医療法人清風会香良病院院長　石井敏樹医師

「認知症当事者の思い」

日本認知症本人ワーキンググループ　佐藤雅彦さん

医師から認知症の基礎知識や最新の治療法などを学び、当事者の佐藤さんからは実際の生活での工夫や日ごろの思いなどを聞かせていただきました。

◇認知症市民講演会の様子

《講演後寄せられた感想》

- 当事者自身の声を聞くことで当事者の想いを聞くことができた。またできる能力に驚いた。
- 前向きな姿勢に感銘を受けた。
- 認知症のイメージが変わった。
- 自分の尊厳を大切してほしい。
- 自分がなったときにどうしてほしいか考えた。
- 認知症は誰もがなる。なっても自分らしさを失わず過ごせる丹波市であってほしい。

◇認知症ガイドブック全戸配布

- 令和6年12月に「認知症ガイドブック」を
  丹波市全戸に配布しました。
- ガイドブックの前身である「認知症ケアネット」を作成後、市役所などの相談窓口および医療機関や薬局など当事者やその家族の手元に届くよう配布を行ってきました。
- 「認知症になっても安心して暮らせるまち」にするために、より多くの方に認知症を理解し自分事として関心を持っていただく必要があると考えました。
- 初版の「認知症ケアネット」から毎年改良を重ね、令和5年には「認知症ガイドブック」として大幅にリニューアルしました。その間、認知症地域支援推進員を中心に何度も議論を重ね、今困っている人にはもちろんですが、認知症を知らない人にも認知症を正しく知ってもらえるよう工夫しました。

◇チームオレンジに向けた取組

- 現在、丹波市内では4か所の認知症カフェがあります。
- 新たに1か所認知症カフェ立ち上げに向けた準備会を開催しました。
- 準備会のメンバーとして、認知症サポーター養成講座を受講された市民の方に、協力打診の案内を送付しました。
- 案内を受け集まっていただいた市民の有志12名と、居宅介護支援事業所のケアマネジャーや認知症地域支援推進員が一緒になり、R7年度実施に向け協議を継続中です。
- また、既存の認知症カフェにも認知症サポーター養成講座修了者がボランティアとして毎回参加されています。
- こうした取り組みの一つ一つを大切にし、丹波市版チームオレンジの活動に繋げていきたいと思います。

認知症当事者の方の声はもちろんですが、一緒に考えたいと声をあげていただいた市民の皆さんも含め、一人一人の思いを大切にしながら、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりのために、次年度も活動を推進していきたいと思います。